

農薬使用時安全性検討会議事要旨

日 時 : 平成16年7月29日(木) 14:00~17:00
場 所 : 独立行政法人農薬検査所 会議室
出 席 : 赤堀、田中、戸部(座長)、降矢、三瀬各委員(五十音順)

(事務局): 独立行政法人農薬検査所

今回の農薬使用時安全性検討会は、バチルス スズチリス(バイオワーク)、エチプロール、アルミゲルア・ウワバルア・ダイアモルア・ビートアーミルア・リトルア剤(コンフューザーV)、ボスカリド、ヨウ化メチル、ジクワット、DBEDC、イソプロチオランを議題として開催された。その要旨は次のとおり。

議題1 バチルス スズチリス(バイオワーク)について

- (1) 事務局より、本薬については、当検討会で初めて審議を依頼するものであること及び毒性試験成績等提出された資料の概要が説明された。
- (2) 提出された資料を検討した結果、別紙1の使用上の注意事項を定めることが適切とされた。

議題2 エチプロールについて

- (1) 事務局より、本薬については、当検討会で初めて審議を依頼するものであること及び毒性試験成績等提出された資料の概要が説明された。
- (2) 提出された資料を検討した結果、別紙2の使用上の注意事項を定めることが適切とされた。

議題3 アルミゲルア・ウワバルア・ダイアモルア・ビートアーミルア・リトルア剤(コンフューザーV)について

- (1) 事務局より、本薬については、当検討会で初めて審議を依頼するものであること及び毒性試験成績等提出された資料の概要が説明された。
- (2) 提出された資料を検討した結果、別紙3の使用上の注意事項を定めることが適切とされた。

議題4 ボスカリドについて

- (1) 事務局より、本薬については、当検討会で初めて審議を依頼するものであること及び毒性試験成績等提出された資料の概要が説明された。
- (2) 提出された資料を検討した結果、別紙4の使用上の注意事項を定めることが適切とされた。

議題5 ヨウ化メチルについて

- (1) 事務局より、本薬については、当検討会で初めて審議を依頼するものであること及び毒性試験成績等提出された資料の概要が説明された。
- (2) 提出された資料を検討した結果、適切な解毒剤及び解毒方法について更に調査が必要であるとされた。また、別紙5の使用上の注意事項を定めることが適切とされた。

議題6 ジクワットについて

- (1) 事務局より、本薬については、当検討会で初めて審議を依頼するものであること及び毒性試験成績等提出された資料の概要が説明された。
- (2) 提出された資料を検討した結果、急性神経毒性試験では無作用量が得られているが、生体機能への影響に関する試験においてはほぼ同用量で無作用量となっていないことについて考察する必要があるとされた。また、別紙6の使用上の注意事項を定めることが適切とされた。

議題7 DBEDCについて

- (1) 事務局より、本薬については、当検討会で初めて審議を依頼するものであること及び毒性試験成績等提出された資料の概要が説明された。
- (2) 提出された資料を検討した結果、本剤の最高使用濃度の希釈液を用いた眼刺激性試験成績の提出が必要であるとされた。また、生体機能への影響に関する試験において無作用量が得られなかった試験項目のあることから、中毒の可能性等について考察する必要があるとされた。また、別紙7の使用上の注意事項を定めることが適切とされた。

議題8 イソプロチオランについて

- (1) 事務局より、本薬については、前回、平成13年10月29日に審議されており、前回指摘された毒性試験等について資料提出があった旨説明された。
- (2) 今回提出された資料を検討した結果、使用上の注意事項については別紙8の使用上の注意事項を定めることが適切とされた。

その他

1. フルアジナムについて

事務局より、平成15年度に実施されたフルアジナム剤についてのモニタリング調査結果について報告された。

2. 次回日程について

次回の農薬使用時安全性検討会は、平成16年11月15日に農薬検査所会議室にて開催することとされた。

(照会先) 検査部毒性検査課 正垣、中村
電話042(383)2151

バチルス ズブチリス

(総合評価) 使用上の注意事項

バチルス ズブチリス 50%水和剤

- (1) 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。
眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (2) 本剤は皮膚に対して刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。
付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- (3) 散布液調製時及び散布の際は保護眼鏡、農薬用マスク、不浸透性手袋、ゴム長靴、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用すること。
作業後は直ちに身体を洗い流し、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (4) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (5) かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触を避けること。
- (6) 夏期高温時の使用を避けること。

エチプロール

(総合評価) 使用上の注意事項

エチプロール 0.5% 粉剤

- (1) 本剤は眼に対して弱い刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。
眼に入った場合には直ちに水洗すること。
- (2) 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。
作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをすること。

エチプロール 10% フロアブル

- (1) 誤飲などのないよう注意すること。
- (2) 本剤は眼に対して弱い刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。
眼に入った場合には直ちに水洗すること。
- (3) 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。
作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをすること。

**アルミゲルア・ウワバルア・ダイアモルア・
ビートアーミルア・リトルア剤**

(総合評価)使用上の注意事項

| |
|------------------------------------|
| アルミゲルア・ウワバルア・ダイアモルア・ビートアーミルア・リトルア剤 |
|------------------------------------|

| |
|-------------------|
| 通常の使用方法ではその該当がない。 |
|-------------------|

ボスカリド

(総合評価) 使用上の注意事項

| |
|----------------|
| ボスカリド 47%フロアブル |
|----------------|

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">(1) 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。 眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。(2) 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。 作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに洗眼すること。(3) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。 |
|---|

注：農薬製剤中の有効成分含有量の表示値に対する管理方法の改正により「ボスカリド 50%フロアブル」に変更)

ヨウ化メチル

(総合評価) 使用上の注意事項

ヨウ化メチル 99%くん蒸剤

- (1) 医薬用外劇物。取扱いには十分注意すること。
本剤使用中に身体に異常を感じた場合は、通風の良好な場所で安静にして、直ちに医師の手当を受けること。
必要に応じて人工呼吸または酸素吸入を行うこと。
- (2) 本剤は眼に対して強い刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。
眼に入った場合には直ちに十分に水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (3) 本剤は皮膚に対して刺激性があるので、皮膚に付着しないよう注意すること。
付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- (4) 本剤の投薬及び開放作業の際は隔離式吸収缶(ヨウ化メチル用)付き全面面体防毒マスク、不浸透性手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。
作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (5) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (6) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。
- (7) くん蒸中及び開放中は付近の見やすい場所に「ガスくん蒸中につき立ち入り禁止」の危険表示をするとともに、くん蒸中は監視を厳重に行うこと。
- (8) くん蒸庫等設備はガス漏れがないように予め目張りを確実にすること。
- (9) くん蒸後はくん蒸庫等内のガス抜きをして、完全に換気してから立入ること。
- (10) 開放に当たっては人畜等に被害を及ぼさないよう周囲の状況に十分注意すること。
(第12項 鍵のかかる場所に保管すること。)

ジクワット

(総合評価)使用上の注意事項

ジクワット 30%液剤

- (1) 医薬用外劇物。取扱いには十分注意すること。
誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせること。
本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受けること。
- (2) 本剤は眼に対して刺激性があるので目に入らないよう注意すること。
眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (3) 本剤は皮膚に対して刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。
付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- (4) 散布の際は防護マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用すること。
作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに洗眼すること。
- (5) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。
- (6) 公園、堤とう等で使用する場合は、散布中及び散布後（少なくとも散布当日）に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。
- (7) 使用残りの薬剤は鍵のかかる安全な場所に保管すること。
(第12項 鍵のかかる場所に保管すること。)

ブリグロックスL（ジクワット7%・パラコート5%液剤）

- (1) 医薬用外毒物。取扱いには特に注意すること。
誤って飲み込んだ場合には、応急処置を誤ると生命にかかわるので、一刻も早く吐き出させ、安静にして直ちに医師の手当を受けさせること。
本剤使用中に身体に異常を感じた場合には、安静にして直ちに医師の手当を受けること。
- (2) 本剤は眼に対して強い刺激性があるので、眼に入らないよう注意すること。
眼に入った場合には直ちに十分に水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (3) 本剤は皮膚に対して刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。
付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- (4) 散布液調製時及び散布の際は、保護眼鏡、防護マスク、不浸透性手袋、ゴム長靴、不浸透性防除衣などを着用すること。
作業後は身体を洗い流し、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (5) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (6) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。
- (7) 散布に際しては憤口にカバー等をつけるか泡散布によることが望ましい。
ミスト機での散布は絶対に行わないこと。
- (8) 散布作業は朝夕の涼しい時間を選び、2時間程度で交代するなどして同一人が長時間継続して散布作業を行わないこと。また、過労時には散布を行わないこと。
- (9) 公園、堤とう等で使用する場合は、散布中及び散布後（少なくとも散布当日）に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。
- (10) 危被害防止上、薬剤を分割して他に与えないこと。
また、使用の場合も本剤及び散布液を防除機、攪拌容器などの防除専用器具以外の容器には移しかえないこと。

- (11) 使用後の空ピンは圃場などに放置せず、必ず危険のない場所で処理すること。
- (12) 使用残りの薬剤は鍵のかかる安全な場所に保管すること。
- (第12項 鍵のかかる場所に保管すること。)

D B E D C

(総合評価) 使用上の注意事項

D B E D C 20%乳剤

- (1) 本剤は眼に対して強い刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。
眼に入った場合には直ちに十分に水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (2) 本剤は皮膚に対して刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。
付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- (3) 薬液調製時及び使用の際は保護眼鏡、農薬用マスク、不浸透性手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。
作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (4) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (5) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。
- (6) 街路、公園等で使用する場合は、使用中及び使用後(少なくとも使用当日)に小児や使用に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意すること。

イソプロチオラン

(総合評価) 使用上の注意事項

イソプロチオラン 36% 粒剤

- (1) 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (2) 本剤は皮膚に対して弱い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- (3) 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (4) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (5) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。

イソプロチオラン 12% 粒剤

- (1) 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (2) 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (3) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (4) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。